

学校概要

創立 73 周年	学校長 富岡 正雄	副校長 高村 彰一	学期 2 学期制	児童・生徒数 335 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: 大道中学校、六浦中学校		

学校教育目標

【いきいき学び、輝く大道っ子】

(知) 思いを表現できる子  
 (徳) だれとでも仲よくする子  
 (体) 命と体を大切にする子  
 (公・開) 自然や地域と共に生きる子

**学校の特徴**

- トンボ池・井戸・歴史資料館を有した豊かな自然と歴史がある学校であり、学習に活用できる材が豊富である。
- 授業づくりに熱心な職員であり、学び合おうとする意識がある。
- 保護者・地域からの信頼は厚く、PTA活動にも協力的である。
- 地域の祭りや行事・各種大会に、本校が使用されることが多く、地域の中心的な役割を果たしている。
- コミュニケーション能力の育成のために、挨拶運動を毎年展開しているが、今後も継続して進める必要がある。
- 学力状況調査の結果からは、学校として基礎・基本の定着に一層取り組む必要があることが分かった。

学校経営中期取組目標

○ 子どもたち一人ひとりの自己有用感を高め、まちの一員としての自覚をもち、まちとともに歩む学校にします。

- ・ 学校教育目標の知・徳・体・公・開の4つの目標実現に向け、子どもたちのよりよい変容が見られるように努めます。
- ・ この3年間は、特に、学習面・生活面ともに、「コミュニケーション能力」の育成に努めます。
- ・ 地域と共に育んできた校内の自然環境(トンボ池・井戸・歴史資料館)を維持し、地域の力を取り入れた開かれた学校づくりを進めます。
- ・ 全教職員が学校経営に主体的に参加し、活力ある学校づくりを推進します。

小中一貫教育の取組

**大道中 ブロック** : 大道中学校・大道小学校・朝比奈小学校・六浦南小学校

**9年間で育てる子ども像**  
○ 自他の関係づくりを大切にする子ども

**自校の具体的取組**  
 ・ 「コミュニケーション能力の育成」をテーマとして設定し、各教科・領域においてテーマを意識した授業を展開する。  
 ・ 教務主任会や専任会などで得た情報を基に、「学習・生活スタンダード」の改善を進める。  
 ・ 学習指導、児童・生徒指導の情報共有をていねいにし、自己有用感を高める取り組みを進める。  
 ・ 「児童生徒交流日」と「別日程の小中の児童・生徒の交流日」を積極的に活用する。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<b>確かな学力</b> 担当 重点研推進委員会	基礎・基本の定着に重点を置くとともに、「学び合い」を重視した活動を取り入れ、主体的な問題解決の中で思考力やコミュニケーション能力の育成を目指す。	① 全学年・学級で少人数指導やチームティーチングを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指す。② 重点研で取り組む算数の授業を中心に、主体的に問題解決する中で、筋道を立てて考えたり、考えたことを伝え合ったりする活動を通して、コミュニケーション能力の育成を進める。
<b>豊かな心</b> 担当 人権児童指導部	よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値づけるとともに、子どもの自尊感情を育て、自他を大切にする心を育てる。	① 人権目標「差別・暴力・いじめ・いじわるをゼロにしよう」が7年目になる。今年度も継続する。② 児童の居場所を作り、周囲から認められることによって、自己肯定感・自尊感情を高める。③ 異学年交流を大切に「なかよし班(縦割り班)活動」や学校行事などを通して、思いやりの心や誰とでも協力できる心を育てたり、認め合う気持ちを育んだりする。
<b>健やかな体</b> 担当 体育部	基本的な生活習慣に関する活動を全校で取り組む。また一校一実践運動を継続的に取り組みながら体力向上を目指す。	① 給食後の歯みがきタイムを全校で取り組み、歯の健康維持に関わる習慣を身につける。歯みがきカードを活用し、自分の歯みがき習慣の振り返りを図る。② 一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、長縄大会を通して体力の向上に取り組む。③ 栄養教諭と連携しながら、全学級で食育に関する授業を行う。
<b>児童生徒指導</b> 担当 児童指導部	全職員で「本校のスタンダード」を共有して指導を行う。学校・保護者・地域・関連機関の連携を充実させ、児童の健全育成に努める。	① 「本校のスタンダード」を全職員で共有して指導にあたる。② 児童の健全育成を念頭に、学校・保護者・地域・関連機関等の連携を充実させ、児童に寄り添った指導を行う。③ 職員会議内に児童理解の場を設け、児童の状況を共通理解し、全職員で取り組む意識を高める。
<b>地域連携</b> 担当 環境教育委員会	保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努める。「まちと共に歩む学校づくり懇話会」で、目指す姿を共通理解し、ベクトルを合わせて進める。	① 侍従川清掃活動・資料館整備・トンボ池清掃・地域諸行事を通して、児童の健全育成に向け、地域の方との連携・協働を進める。② 「まちと共に歩む学校づくり懇話会」の参加メンバーや話し合う内容をさらに改善し、問題意識を共有して取り組む。③ 教育活動の情報発信を工夫する。(ホームページ・学校正門前掲示板)
<b>特別支援教育</b> 担当 特別支援委員会	特別な支援が必要な児童の実態を把握し、適切な教育の場を提供する。さらに、合理的配慮に対する職員の理解を進め、児童に寄り添った教育環境を整える。	① 特別な支援が必要な児童の実態把握を前年度末に行い、新年度初めに個別の教育支援計画を作成する。② 特別支援教室調整会議を開き、特別支援教室の利用について翌週の計画を立てると共に、児童の様子について情報交換を行う。③ 特別な支援が必要な児童に対する職員の共通理解が図れるよう、合理的配慮に関する研修を行う。
<b>人材育成・組織運営</b> 担当 教務部	教職員の学校運営参画意識を高める。そのためには、研修の機会を定期的にもち、自分ごととして取り組むことを通して「授業力・学級経営力・教師力」の向上を図る。	① 経験5年以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、管理職やミドルリーダーが講師を務める活動を月1回継続して行う。② 週に1回、学年研・ブロック研などで教職員同士の情報の共有化を図り、授業づくりや児童指導などに活かす。③ 教務会を中心に、今後目指す方向や具体的な改善点について検討し、充実した学校運営を実施する。